

令和3年度 第1回北海道 Society5.0 推進会議 「データ利活用ワーキンググループ」 開催概要

1 日 時

令和3年7月7日（水）10:00 ～ 12:00

2 実施場所

Web 会議

3 出席者

別添「出席者名簿」のとおり

4 議 題

別添「次第」のとおり

5 議 事

(1) 議事1 本日の会議について

・事務局（北海道）から説明（資料3）

(2) 議事2 現状の把握

- ・政府のデジタル戦略と自治体での推進
（内閣官房 政府CIO 上席補佐官 平本 健二）
- ・道内の自治体オープンデータの現状
（北海道総合政策部 DX 推進課 喜多 耕一）

(3) 議事3 メンバーの取組を紹介

・ワーキンググループのメンバーの取組を各自紹介

(4) 議事4 意見交換

・事務局（北海道）から説明（資料4）

<データについて>

- 国や地方自治体のオープンデータはいろいろな場所で公開されているため、使いやすいデータが見つからない
- ポータルのような誰でもアクセスできるようにデータが探しやすくなっているのが理想。データを直接とってくるようなAPIを作るのがベストではあるがハードルが高い。

<地方自治体のオープンデータ>

- 市町村がデータ作るときに道のまとまりでも良いですが、入力してくださいとデータを入力して、それを活用できるようになれば良いと思う。
- 行政のオープンデータを使う一番のユーザーは行政の方々で、そこで一番メリットを得るようなオープンデータにならないと進まない。道が主導権をとって、事例とこういうツールを使えばこのような感じで割と簡単にできるから、ここで管理するといいいよ、みたいなことができると思う。
- 簡単な操作でデータがホームページに自動的に反映するようなテンプレートみたいなもの事例としてあると、やってみようかなというようなことになると思う。
- 市町村のオープンデータに関してはデータが使われることに対する拒否感がある。間違いがあったとき、その責任を問われるのが嫌であったり、我々が意図しない使い方をされるのが嫌であったり。そういう、使われることに対する拒否感というのが、実はオープンデ

ータが進まない理由の一つにあるかと思う。

- シンプルにコミュニケーション不足。データを利用する側はPDFなんか使えないといって、オープンデータを使わない。一方行政の方はきっと見やすいだろうとか、親切心でPDFにしたのかもしれない。使う側と使われる側の乖離がすごく大きいと思っている。この溝を埋めていくことが遠回りのようで一番近い。
- BI ツールなど様々なツールがあるので、Excel で完結しないで、仕組みとして大変じゃないが、きちんとリアルタイムデータを把握できるようなことを考えて行くことが大事。
- 道庁が持っているデータをきちんと整理し、棚卸しされているのか。そういうところを整理して、北海道オープンデータ協議会などと連携しながらデータのリスト化などに取り組むことが大事。

<民間のデータ活用>

- 民間がオープンデータを活用していくことを考えたときに、官民がコミュニケーションを取るための仕組みがあることが重要。
- 民間もオープンデータの仕組みに乗って、自分たちもデータを公開するとか、オープンデータ全体でこれまでなかった新しいサービスが生まれてくる場にしなければいけない。

(5) 議事5 今後の進め方について

- ・事務局（北海道）から説明（資料5）